

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0990800054		
法人名	医療法人社団友志会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎		
所在地	栃木県小山市小山111-1 (電話) 0285-31-0255		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年3月18日	評価確定日	平成22年4月27日

【情報提供票より】(平成22年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—1,500円 ・おむつ代—84円/1枚 ・日常生活品費—333円/1泊 ・パット—52円/1枚 ・リハビリパツ—168円/1枚 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成22年1月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.5 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小山市市民病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはJR小山駅の東側にあり、国道50号線にも近いが周辺を田畑や新興住宅地に囲まれた閑静な場所に位置している。ホームは和風の平屋建ての建物であり、小規模多機能型居宅介護及び認知症対応型デイサービスも併設されており、地域密着型総合住宅となっている。開所から3年が経過し、職員の連携体制も構築されており、理念の根底にある「共存」を常に意識し、日々入居者の一人ひとりを尊重した言葉かけや個々の時間とペースに合わせた柔軟な対応により、入居者が張り合いのある生活が送れるよう支援に努めている。また、地域との交流にも積極的に取り組んでおり、地域からの期待や信頼が寄せられているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は外部評価の意義やねらいを理解しており、評価結果については運営推進会議での報告や職員へもミーティングで報告及び話し合いを行い、改善への取り組みに活かしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員が昼休み等を利用して書き込んだものを管理者がまとめ、試案をミーティングで話し合った結果を含めて、再度、管理者がまとめあげている。</p>
	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人幹部等の参加により2カ月毎に開催されている。会議では利用状況や行事、事故等の報告を行い、参加者からは、それぞれに意見や助言を出してもらい、サービスの向上に役立っている。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書にはホームの苦情受付窓口担当者の他、市担当部署、国民健康保険団体連合会が明記されており、入居時に家族等へ説明をしている。また、家族の来所時には意見や要望を確認している他、ホームには家族会も発足しており、家族からの意見や要望等を表す機会として活かしている。</p>
	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の防災訓練や文化祭等への参加や自治会の夏祭りでは子ども神輿に休憩場所も提供しており、日々地域住民との交流を行っている。また、近隣の小学生や保育園児の訪問の受入れや絵手紙や裁縫等を指導してくれるボランティアも積極的に受入れており、地域との相互交流に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは同法人グループホーム間で共有している「ケアするケア・ケアされるケア」を理念としており、一方的な介護ではなく、共に過ごす者として共存を第一に考え、住み慣れた地域での生活継続の支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関等に掲示している他、月1回のミーティング等で職員へ定期的に理念の確認に努めている。また、入居者と共に過ごす中で理念の一方的な押し付けではなく、全職員が日々の取り組みの中で理念を意識しサービス提供に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の防災訓練や文化祭等への参加や自治会の夏祭りでは子ども神輿に休憩場所も提供しており、日々地域住民との交流を行っている。また、近隣の小学生や保育園児の訪問の受入れや絵手紙や裁縫等を指導してくれるボランティアも積極的に受入れており、地域との相互交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義やねらいを理解しており、評価結果については運営推進会議での報告や職員へもミーティングで報告及び話し合いを行い、改善への取り組みに活かしている。今回の自己評価は、職員が昼休み等を利用して書き込んだものを管理者がまとめ、試案をミーティングで話し合った結果を含めて、再度、管理者がまとめあげている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人幹部等の参加により2カ月毎に開催されている。会議では利用状況や行事、事故等の報告を行い、参加者からは、それぞれに意見や助言を出してもらい、サービスの向上に役立っている。	○	議題によっては市担当職員、警察官や消防署員等にも参加を呼びかけ、運営推進会議がさらに充実したものとなるよう、参加者の選定に工夫をしていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員へは制度上の相談や書類の提出等で訪問や電話により連携を密にしている。今後は、運営推進会議への参加の呼びかけや認知症の理解促進のために共同して取り組んでいく予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への入居者の暮らしぶりや健康状態の報告は、来所時や電話等により行っている。また、2カ月毎に発行している広報誌「風わらう新聞」によりホームでの行事や暮らしぶり、職員紹介等も行っている。金銭管理については出納帳のコピーを定期的に家族に渡し、確認してもらっている。	○	家族へ職員の顔や名前を覚えてもらうためにもホーム内に職員紹介の掲示や、さらに広報誌を活用していくことに期待したい。また、各家族の理解度の違いを認識し、書類等の説明を工夫していくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にはホームの苦情受付窓口担当者の他、市担当部署、国民健康保険団体連合会が明記されており、入居時に家族等へ説明をしている。また、家族の来所時には意見や要望等を確認している他、ホームには家族会も発足しており、家族からの意見や要望等を表す機会として活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による継続的な支援の重要性を認識しており、職員の異動は最小限に留めている。やむを得ず異動や離職がある場合には、引継ぎ時間を充分に取り、利用者にはダメージが出ないよう配慮している。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修が月1回行われており、参加できる職員は参加をしている。外部研修にはパート職員を含めた全ての職員が順次参加できるようにしている他、スタッフルームには介護系の情報誌を自由に閲覧できるようにしており、研修会の情報収集にも活かされている。研修会に参加した職員は報告書を作成し、ミーティングで伝達を行い、知識の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入している。同法人内のグループホーム間との連携に努め、情報交換を行っている。また、市が開催した地域密着型サービス事業者の集まりに管理者が参加し、近隣事業所との交流も始められた。	○	同法人内の交流だけでなく、今後はさらに市内のグループホーム間での交流を促進し、職員間の相互訪問や研修会の開催等、サービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には見学やお試し利用を勧め、ホームでの暮らしぶりや雰囲気を確認してもらっている他、職員や他の入居者とのなじみの関係を築いてもらっている。入居当初は、本人の様子等を伺いながら声かけに努め、早くホームに馴染めるよう配慮した支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に生活する仲間として、炊事の下準備、洗濯物たたみ、掃除等、出来ることを一緒に行っている。また、職員は味付けや調理方法を入居者に教えてもらうなど、入居者の笑顔も多くなり楽しみながら共に過ごし支え合う関係を築いている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者との馴染みの関係から本人の表情や仕草、言葉等から意向の把握に努めている。また、入居時等に家族から生活歴や趣向等を確認しており、一人ひとりの思いや意向の把握に活かしている。入居者の不安が生じないように、職員の気付きも取り入れながら本人本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人及び家族の意向を確認したうえで、各入居者の担当職員が作成し、さらに職員間で意見やアイデアを出し合い介護計画を仕上げている。作成された介護計画は家族に説明し、確認をしてもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に行い、病気や怪我等により本人の機能に変化があった場合には随時、状態に即した介護計画を作成している。見直した介護計画も家族に説明し確認を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。ホームは小規模多機能型、認知症デイサービスが併設している複合施設であり、利用者同士の交流がある他、同法人のリハビリスタッフが来所したり、音楽療法が行われる等、事業所の多機能性を活かした支援が行われている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診の付添いは家族にお願いしているが、場合によっては家族の代わりに送迎したり、希望があれば同席している。薬の処方セットについては小規模多機能型の看護師による支援もあり安心した体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、本人及び家族の要望の把握に努め、できるかぎり要望に添えるよう努めている。家族から慣れ親しんだホームでの終末期を過ごしたいとの要望があったことから、協力医や小規模多機能型の看護師の協力によりホームで看取ったこともあり、職員全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームでは一人ひとりの尊厳を尊重しており、入居者への言葉かけや支援方法等についても十分注意をしている。新人職員には接遇の訓練も行っている。個人情報記載されたファイル類は事務室内の書庫にて適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは食事の時間等の日課はあるが、声かけによる確認によりその人らしい生活が送れるよう、入居者個々の時間とペースに合わせた柔軟な対応を行っている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりに配慮しながら、職員と一緒に準備や後片付けを行っている。職員は入居者と共に同じ物を会話を楽しみながら食べている。季節毎の行事食やホームの畑で採れたものを利用するなど、食事が楽しみになるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は特に決めずに週2～3回入浴を支援している。入居者の中には入居者同士で入浴をする方やゆず湯等の季節湯や入浴剤を用いて入浴を楽しんでいる。また、重度化しても、併設の小規模多機能型での特殊浴槽により支援できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はレクリエーションやお楽しみ会、ドライブ等の楽しみ事や食事の片付け、食器拭き、洗濯物たたみ等、それぞれの役割があり、職員は一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の外出はホーム周辺の散歩や近隣にあるホームの畑へ出掛けている。また、買物や弁当を持参した季節毎の外出や外食を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないケアの実践に取り組んでおり、職員の見守りにより玄関や居室には施錠はされていない。玄関にはセンサーが設置されているが、職員は入居者の外出傾向の把握に努め、不穏な入居者には寄り添いながら、日々安全に努めている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、自治会の協力や消防署員の立会いの下で定期的に防災訓練を実施しており、夜間時を想定した訓練も実施している。平成22年度中にスプリンクラーの設置も予定しており、入居者や家族の安心に繋がっている。緊急時対応マニュアルも作成されており、職員にも周知が図られている。	○	夜間時等の職員が少なくなる時間帯においては、事業所だけの対応の難しさも見極め、地域住民や消防団の協力体制の構築や合同での防災訓練の実施に向けた取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の介護老人保健施設の管理栄養士から栄養バランスやカロリーの助言の下に献立を作成している。入居者個々の食事や水分摂取量を把握している他、病院で指示がある場合などには栄養補助食品等を使用し、適切に栄養摂取ができるよう支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者と職員が作成した季節毎の飾り付けや行事等で撮影された入居者の写真が飾られている。居間にはソファが置かれている他、テラスにも自由に出入りできるようになっており、入居者は思い思いにそれぞれの場所で過ごしている。共用部は常に清掃が行き届き、不快な臭いや空気のみは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に本人及び家族には使い慣れた家具や小物の持ち込みを促している。各々の居室には馴染みの椅子や筆筒、テーブルやテレビ等が持ち込まれて、個性のある部屋になっており、居心地よく過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。